

2年目に入った万引き防止装置の普及を目指す日本 EAS 機器協議会 (JEAS)

日本 EAS 機器協議会 (JEAS、会長：山村秀雄・高千穂交易社長) が設立 2 年目に入った。心臓ペースメーカーへの影響が疑われたことから設立された経緯があるが、その後、この問題は平静化され、“万引き防止にいかに関与するか”をテーマに普及促進が課題となっている。EAS: Electronic Article Surveillance/電子商品監視装置 = 万引き防止装置の英文名の略称)。

6 月 5 日に開催された第 1 回通常総会では、今年度事業計画として、国民が安心して生活するため、EAS 機器の正しい情報を提供する、会員にとってメリットとなる事項を推進する、各関係団体との連携による JEAS の地位向上を図る、情報化社会の動向・方向を把握し、社会インフラとしての EAS 機器の積極的参画を果たすことを基本テーマに決め、

重要施策として、損害保険・融資制度などの実態の把握と活用への建議、各業界別に抱えている課題の把握とセミナー・研究会などの開催、業種別・地域別商品ロスの実態調査、RFID に関する情報収集と研究を決めるとともに“電波の医用機器などへの影響に関する調査研究会”へ参加する。

総会後にはシンポジウムが行われ、警察庁生活安全局の吉田英法・安全企画課長が最近の万引きの実態を数字を挙げながら説明し JEAS への期待を述べた。続いて、実際に日々お客に接している小売団体の日本電気大型店協会 (NEBA) タグ&パック (書籍にソースタギングを進める会)、自動車用品小売業協会 (APARA) の防犯担当者が万引きの実情を説明し JEAS に対応などを要請した。

NEBA で防犯対策委員長をしているラオックス株の古谷野好弘・管理本部総務部長は、NEBA が調査した 2001 年 1~12 月における商品別盗犯被害状況を明らかにするとともにラオックスにおける万引きや侵入盗の被害状況を語り、JEAS に対して 装置の共通化、店舗に対して本当の防犯システム提案ができるプロを養成、装置のレベルアップとコストダウンを要請した。“店舗に対して本当の防犯システム提案ができるプロの養成”を要請された JEAS のメンバーは、これを真摯に受け止めるべきである。

NEBA 店店頭における商品別盗難被害状況調査の結果 (2001 年 1~12 月累計、会員 46 社)

	被害額			被害台数			1 件当り 被害額
	金額	構成比	前年比	台数	構成比	前年比	
パソコン本体	241,481	32.23	129.35	1,284	4.97	137.62	188,069
ビデオカメラ	199,179	26.59	119.95	1,569	6.08	115.54	126,946
パソコン周辺機器	64,146	8.56	122.89	2,244	8.69	149.20	28,586
デジタルカメラ	58,990	7.87	180.76	903	3.50	188.13	65,327
ポータブルオーディオ	24,965	3.33	103.77	1,254	4.86	107.00	19,908
DVD プレーヤー	19,374	2.59	87.95	343	1.33	91.96	56,484
AV 関連付属品	13,423	1.79	126.24	1,500	5.81	179.43	8,949
パソコン消耗品	11,532	1.54	93.15	4,471	17.31	344.19	2,579
理美容健康器具	11,128	1.49	187.66	1,652	6.40	191.20	6,736
オーディオ	9,884	1.32	157.51	344	1.33	137.60	28,733
その他	95,053	12.69	83.13	10,263	39.72	95.43	9,261
合計	749,155	100.00	118.31	25,827	100.00	130.29	29,007

単位 金額：千円、台数：台、構成比・前年比：%、被害単価：円

自社で売っている装置についての機能の説明は出来ても正しい運用についてはキチンとした説明が行えず、万引きや窃盗犯、侵入盗などの発生件数、手口など何一つ知らず、営業マンに教えもしていない。「本当の防犯システム提案」を行うためにはEAS機器だけでなく、監視カメラやセンサーなどについても十分な知識が必要であるが、悲しいことにトータルに知識を持ち、キチンと説明し提案できる営業マンはまずいないというのが現実なのである。

古谷野氏は、最近の犯罪の特長として自店（ラオックス）のケースを例にあげながら、デフレスパイラルによりDVDや小型液晶プロジェクターなど換金性の高い商品が狙われ、単独犯より複数犯が増え、「ついで犯」より確信犯が多くなっているとし、手口として鍵（錠前）を壊したり、扉を壊す、箱物商品の中抜きする、山積み商品をごそっと持ち逃げする、侵入盗が増えたとし、自店では防犯システムや損害保険、保安員などに年間2億円掛けているという。この話があった後に「店舗に対して本当の防犯システム提案ができるプロを養成」して欲しいという要請があったもので、メーカーや販売業者は真剣にこのことに対処すべきである。

タグ&パック（書籍にソースタギングを進める会）は、三洋堂書店の加藤和裕社長が事務局長となって活動しているグループで、シンポジウムにはその加藤事務局長が出版業界の万引き防止に対する考え方、課題、取組み状況を説明、ソースタギングは望み薄、RFIDについては例え5円でも1冊390円のコミックには重荷であり、RFIDの動きは結果としてEAS機器導入の足かせになっている、頼みの綱のスリップ廃止は消費税総額表示により無期延期になったのが痛いと言及、JEASに対して次のように望んだ。

EAS機器を製造し販売するメーカーは何をもって社会に貢献するのか？各社の事業目的は多様だろうが、その原点は犯罪のない安全な社会を創ることではないか？マッチポンプであってはならないと思う。犯罪の入口（盗む）だけでなく、出口（売る）を塞ぐ活動もすべきではないか？盗品問題は換金問題。容易に換金できるから大量に盗む。古物営業法、青少年育成条例など、ザル法となっている現行法改定に向けてイニシアティブを発揮して積極的に取り組んでいただきたい。

そして、次の例え話で話を結んだ。石切工に何をしている？と聞いた。一人目は「石を切っている」と答えた。二人目は「建物を建てている」と答えた。三人目は「世界一の聖ピエトロ大聖堂を建立している」と答えた。日本EAS機器協議会加盟各社は、決して「防犯ゲートを売っている」のではないと信じる。どうだろうか？皆で足を蹴っ飛ばしあいながら防犯ゲートを売っているのが実態だと思うが…。

自動車用品小売業協会（APARA）の酒井勝事務局長は、カー用品店の最近の被害実態として、夜間侵入盗が激増し、平成12年後半から金庫狙い、カーナビゲーション狙いの2タイプが目立つ、今年になってから特に目立つのは、営業中に商品を堂々と持ち去るケースが多くなっており、カーロケーター機能付きのレーダー探知器が盗られている、最近の犯罪は一昔前と大きく様変わりしており、粗暴化、悪質化、プロ化、国際化、グローバル化のマイナス面が出ていると説明した。
(2003・6・5)